

フォトコラージュの諸問題 - 著作権、技術、社会倫理上の問題を中心として -

鈴木 康平

本研究は、フォトコラージュが持つ様々な問題について、法制度、技術、社会倫理上の問題を中心として、各領域の問題を考察・検討し、その解決策を提示したものである。

近年のコンピュータ・ソフトウェアの進歩により簡単に写真に基づいてフォトコラージュ (photograph collage) を制作することができるようになった。しかし、フォトコラージュには様々な問題が存在する。一方で、フォトコラージュは芸術の一手法として広く用いられており、フォトコラージュそのものを禁止するような制度や技術制限を課すことは適切ではない。権利と表現の自由とのバランスを考慮した対策が必要になる。

法制度上の問題としては、素材となる写真との関わりで著作権、肖像権等を中心とする多く権利問題が発生しうる。関連する判例を検討することで、法制度上の問題が起こる本質的問題は、他人の著作物を利用する場合のフォトコラージュの権利をどのように処理するか、ということであると考え、その解決策として、米国著作権法の事例を参考に、公開された著作物に著作権者が誰なのか明確に示されていないならば、著作権者に無許諾で著作物を利用したとしても、著作権侵害には問われない、といった法制度の改正を提案した。

技術上の問題としては、不正な複製・改変をいかにして防ぐかといったデジタルデータの技術的保護の問題等がある。画像処理技術やデジタル著作権保護技術 (DRM) 等の調査を行い、本質的な問題は、不正な複製や改変技術を制限することは実質的に不可能であるという点にあると結論づけた。解決のためには、違法複製物の真贋を見極めるための真贋鑑定技術や、不正な画像を発見するためのデジタル画像鑑定技術等の開発を行うことが必要である。

報道写真等、真実の光景か否かの真偽が求められる写真の改ざんに関しては社会倫理的な問題が発生する。事例調査を行い、本質的な問題は写真がつけられたメディアであることを一般大衆が認識していないことであると考え、メディア・リテラシー教育に力を入れることがその解決になるという考えに至った。

フォトコラージュには、法制度、技術、社会倫理上の問題が複雑に絡みあっている。誰でも容易にフォトコラージュを行うことができるようになったことは技術の進歩の結果であり、否定することではない。フォトコラージュは写真の表現手法の一つであり、積極的な保護を図る方向で検討していかなければならない。今後は、情報化社会に相応しい法制度の構築や情報技術の推進、社会倫理政策の発展を促していく必要がある。

(指導教員 松縄正登)